

答申骨子案

1 今後の公立保育所が担うべき役割について

- ・ 支援が必要な子どもの入所、災害時における代替保育の実施場所の提供など多様なサービスへの対応も視野にいれ、私立の保育所、認定こども園及び幼稚園だけでは対応が困難な部分を積極的に担っていくこと
- ・ 久留米市全体の保育の先導的な立ち位置で、モデル事業などに取り組むとともに、私立の保育所、認定こども園及び幼稚園への横展開に努めること

2 今後の公立保育所のあり方・方向性について

- ・ 公立保育所には公的機関として担うべき役割があることから、すべてを民間移譲するのではなく、適切な数の確保に努めること
- ・ 存続する公立保育所に求められる機能や拠点性などは、地域特性やバランスを考慮のうえ、市民目線で検討すること
- ・ 民間に移譲する保育所については、利用者の居住や就労等の環境を踏まえた将来的なニーズも含めて検討すること

附帯意見骨子案

- ・民間移譲する場合は、サービス低下とならないように従来の機能や役割を損なわないことを条件とすべきと考える。
- ・存続させる公立保育所は、経営上の収支にこだわり過ぎることなく、公立であることの強みをいかして真に必要なサービスの提供に努めてほしい。
- ・保育士確保の観点から、子育て世代などの潜在保育士が復帰しやすいように研修を開催するなど、保育の現場で働きやすい環境づくりを進めていただきたい。
- ・人材不足への対応としては、外部のコンサルタントを活用し、保育士の新しい働き方を検証していただきたい。
- ・正規保育士の採用試験では、年齢上限の見直しや経験者採用など、多くの方が応募可能となるような環境としてはどうか。
- ・支援が必要な子どもを早い時期から引き受けていくためには、人材や専門的知識が必要であり、従事者の確保を含め保育の質の底上げを行ってほしい。
- ・支援が必要な子どもへの対応は、公立保育所だけでなく、すべての主体において行う必要があるので、幼保小や子育て支援に取り組む組織・団体などとの連携が非常に重要と考える。
- ・再編後の公立保育所では、事業の選択と専門的な知識を有する人材の確保が不可欠と考える。